倉敷市立倉敷第一中学校　第2学年　学年通信

しあわせ

令和8年　6月　1日発行　神戸研修を終えて

Help each other.

～あの日の出来事を胸に、多くの命を守るには～

生徒の「振り返り」の一部を紹介します。

○神戸で地震の映像を見て、震災の悲惨さをより感じることができた。また、避難所で困ることや、対策の仕方も学ぶことができたので、家で家族いっしょに対策を練りたい。

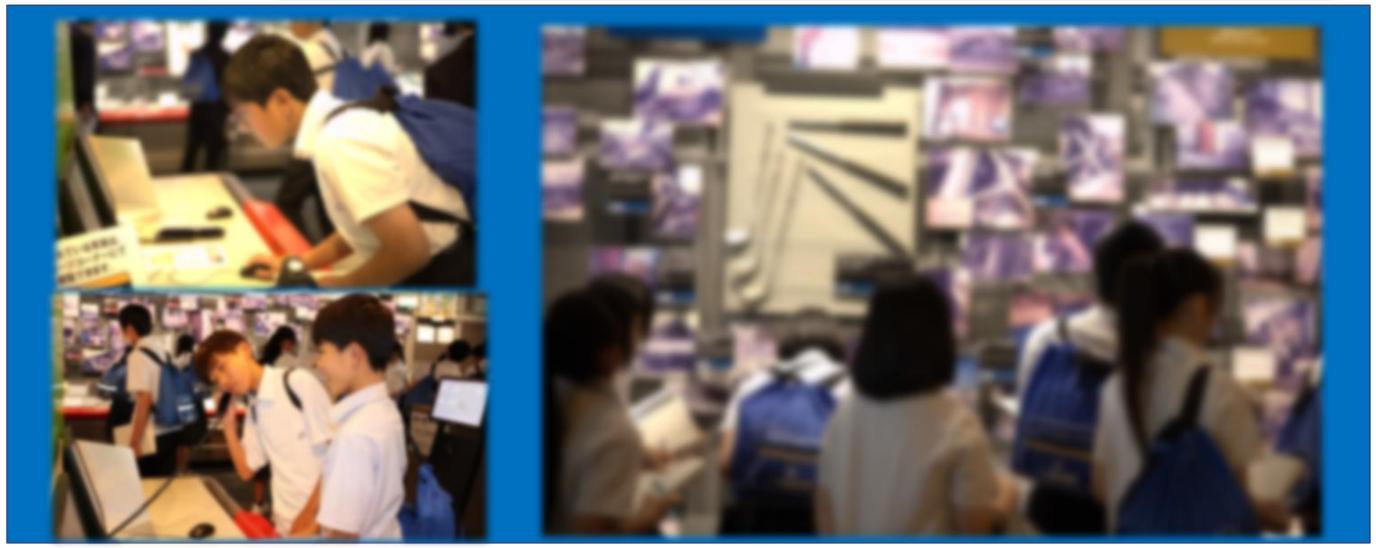
○今回の研修で、命の尊さや自分では何一つ出来ないという「しんどさ」が分かった。１９９５年１月１７日午前５時４６分、阪神淡路大震災が発生し、６時間後には神戸が火の海になった。がれきの下に埋まってしまった父を助けようと援護を呼ぶが、応答がある人が優先など、自分が経験したら・・・と考えると心が痛くなった。

○研修前は「災害が起きても避難すれば助かるし大丈夫だ」と思っていたけれど、研修を通して、避難できない状況になったり、避難できても苦しい生活が続いたりすることがあるとわかった。自分の考えを見直し、災害が起こった時に困らないようにしたい。

○実際に地震が起きたら、逃げたくても逃げれなさそうだった。

○今後の生活で生かしていきたいと思うことは、いつ予想外な事が起きるか分からないので、その場での対応や誰と一緒にいるか等を考えて、臨機応変に行動する考える力を、日常生活でも生かしたい。

○今当たり前の生活は当たり前じゃなくなるかもしれない。一日を大切に過ごしていきたい。



○避難所で生活する時、家族で過ごすスペースが無いこと、ペットや赤ちゃん等に気を配って生活することが大変なことだと感じた。倉敷は液状化現象などの危険区域なので、自分で考えて行動できるようになりたい。

○今後の生活で生かしたいことは「自分で考え、行動できるようになること」。災害は必ず起こるので、周りに流されて命を落としたくない。自分で考えて素早く行動できるようになりたい。

○避難所での追体験や語り部さんの話を聞き、阪神淡路大震災では多くの人が被災し、様々なことに苦労して復興していったのだと思った。地震はいつどこで起きるかわからないくらい身近なものだということがわかった。

○実際に神戸を訪問しないとわからないような地震直後の様子、命が守られた実際の話を見たり聞いたりできた。いくら備えをしていても震災はいつ起きるかわからない。なので、心構えができなかったり、現実として受け止められないことは当たり前なんだと思った。

○ふたば学舎での体験。家族が避難するととてもせまいし、寝るのも困難な上、ほぼプライバシーが守られないような環境であることを学んだ。語り部の方が言っていたように、「自分が何ができるか」についてよく考えておくことが大切だということを実感した。研修で学んだ問題・課題に冷静に向き合い、対策などを生かしていけるようがんばりたい。

○自分が生まれる前に、こんな大きな地震が起きていて、人と防災未来センターで見た地震の映像が実際に起こっていたことに驚いた。このような中で人が生きていたことがすごいと思った。この研修を通して、人と支えあう大切さや、自分にもしものことが起こった時に困ることがないように、家族で話し合おうと考えた。

○普段神戸に行く時には楽しい気持ちで行っていたので、今回のように真剣な気持ちで訪問するのは少し不思議な感じがした。自然災害は、人間の力では止めることができないので、人間は備え・心構えをしておく必要があると知った。様々な映像を見て正直怖いと思った。実際に大地震が起きたらパニックになりそうだと思った。

○地震はいつ起きるかわからない。もしかしたら旅行中かもしれないし、睡眠中かもしれない。だからいつ起こってもいいように準備と対策を日頃からすることが大切だと思った。また、地域の人と協力することで、一人でも命を落とす人たちが少なくなると思った。